

飯沢匡喜劇集 Ⅲ

# 飯沢匡喜劇集

## 第3卷

収録作品

皺と鼻

怖い子供たち

物体嬢

私の秘密

騒がしい屍

塔

解題・演劇的自伝(3)

未来社刊

飯沢匡喜劇集 第三卷

一九七〇年二月五日 第一刷発行

定価 七五〇円

©著者 飯沢匡  
発行者 西谷能雄

発行所 株式会社 未来社

東京都文京区小石川三の七  
電話(八一四)五五二一代表  
振替(東京)八七三八五番

本文印刷 光陽印刷  
装本印刷 形成社  
製本 今泉誠文社

乱丁・落丁本はおとりかえします。

飯沢匡喜劇集 第三卷 目次

皺と鼻 3

怖しい子供たち 45

物体嬢 71

私の秘密 127

騒がしい屍 161

塔 193

解題 283

演劇的自伝 (3) 295



皺

と

鼻

(二幕)

登場人物

藤野 慎吾 (電気通信機会社社長)

たか子 (同 夫人)

操 (一人息子、銀行員)

藤野 かつ子 (慎吾の弟の夫人)

女 中

附 添 婦 (老 婆)

相 良 (病院の助手)

春 木

北 山 寿々代

仲 居

看 護 婦 A

B

パンパンガール

他に、看護婦、医局員、患者、仕出し屋の出前持  
などアパートの住人たち。

## 第一幕

## 第一場 藤野家の応接間

藤野家の居間兼応接間、たか子とかつ子が話している。しかし、俳優は活人画の形で少しも動こうとしない。

語り手 (舞台より声のみ) えーみなさん、お静かに願います。(間)どうぞお静かに！ でないと芝居がはじめられません。ああ、その奥さま、お席がおわかりになりますか。落着いて落着いて。静かに案内人におきください。そう、そうです。

どうぞこれからは劇場には、もうちよっとお早目にお出かけください。でないと早くから来ていらっしやるお客様にご迷惑ですからね。それに、こうやって固くなって動かずにいる役者諸君も気の毒です。じゃ、よろしゅうございますか、もうお席はみつかりましたね。よろしゅうございますね。おやお

やまた遅れたお客さまがいらっしやいました。さあさあお静かに願います。お静かに！ では、水谷さん、どうぞ！

## 第一場はじまる。

たか子 かつ子さんかつ子さん、それは、かつ子さんの気のせいよ。

かつ子 (泣きながら) いいえお姉様、そんなことありませんわ、気のせいじゃありません。事実なのよ。ええ。本当いうとね、……お姉様！

たか子 ええ、どうしたの。

かつ子 え？ いや、いわないわ。

たか子 あら、おっしゃりにくいこと。

かつ子 ええ、(間)どうしようかな、いっちゃおうかしら。

たか子 でもうかがっていけないことなら……おやめになったら……。

かつ子 (あわてて) ううん、でもやっぱり、……くやしいわ。きいていただくわ、きいてくださる。

たか子 私はどちらでも……。

かつ子 まあずいぶん冷淡でいらっしやるのね、きいて  
ちようだいよ。

たか子 ええ、よくてよ。

かつ子 あのね、対手<sup>あいて</sup>は、お隣りの平賀まり子なのよ。

たか子 え？ まあ、あのヴァイオリンの先生の。

かつ子 そう、あのオールドミスよ、人もあるうに。

たか子 まさか。

かつ子 だって、とっちめたら本人が自白したんですも  
の。

たか子 まあ、かつ子さん、平賀先生をとっちめたの。

かつ子 いいえ、うちの孝行<sup>たかゆき</sup>よ……、それでね……、あ

あくやしい。やはり申し上げようかしら、どうしよう  
かな。

たか子 あらまだあるの。

かつ子 ええあるの。

たか子 まあ、今度はどなた。

かつ子 いいえ、対手<sup>あいて</sup>のことじゃないの、まだいえない  
ようなすごい事実があるの。

たか子 そう。

かつ子 きいてくださる。

たか子 でもうかがっていけないことなんですよ。

かつ子 いいえ、お姉様だから申し上げちゃうわ、あの  
ね、あきれるでしょう、孝行<sup>たかゆき</sup>ったらね。

たか子 あのう、あんまり、ひどいお話は私いやよ。そ  
ういうお話きくと私困るほうだから。

かつ子 そうね、そりゃかなりひどいけど、まあ、じ  
ゃ、ゆるやかにしてお話するわ、お姉さま向きにね。

たか子 ええ、おそれ入ります。

かつ子 あのね、お姉様、私見ちゃったの、二人の現場  
を！

たか子 まあ！

かつ子 それがよ、お姉様……まあね、どうでしょう。

たか子 いいえいいえもう結構！

かつ子 大丈夫よ、くわしくはお話しないわ。孝行<sup>たかゆき</sup>の競  
馬の時に使う望遠鏡で、二階の寝室から見てたらね、

見えちゃったのよ。それがもうすごい……。

たか子 ええ、よくてよよくてよ、かつ子さん。

かつ子 そう……。くやしいわくやしいわ、四十になっ  
てヴァイオリンなんて変だと思っただけけど、麻雀なん

かより健全だと思つてゆるしてやったのに、ねえ（泣く）

たか子 孝行さんがヴァイオリンおはじめになったのは……。あらもう三年ね。

かつ子 そうなの、三年やつてもちつともうまくならないはずよ。とんでもないヴァイオリンを鳴らしていたんですもの、私くやしいわ。

たか子 困ったことね。

かつ子 どうして兄弟だというのに、こちらのお兄様とは、ちがうんでしょうね。

たか子 そうね、大きなイビキをかくとこやおたくあんが好きなとこなんか似てるじゃないの。

かつ子 でもすくなくとも、品行の点では全然反対よ。

孝行ったら手当り次第なんですよ、お隣りのオールドミスと仲よくなりながら、一月にね、三日くらいは平気で外泊して来るし、とっちめれば、二言目には、つき合いだよ。でしょ。そしてべらべらと商売女とのけがらわしいことを、くわしく報告するの。

たか子 そう、困ったわね、たくがアメリカから帰つて来たら、いわせますわ。

かつ子 さあ、ききめがあるかしら、こちらのお兄様おとなしくていらっしゃるから。

たか子 そうね、その点は、危かしくてね。

かつ子 でも、おとなしい方のほうが気楽ね、三ヶ月もアメリカへいらしてもお姉様ご安心でしょ。

たか子 ふふふ、何ですか、昨日も手紙来たのよ。あれで時には自炊してるんですって。

かつ子 まあ、お兄様が、はははは社長さんが……ははははは……そう。

ベルの音。

たか子 （腕時計を見て）あつ、操よ、きつと。

かつ子 私、そろそろおいとましようかしら。

たか子 あら、まだいいじゃないの。でも、そのことで、あなた何か考えていらっしゃるの。

かつ子 ああ、離婚？

たか子 ええ、まあそういうことよ。

かつ子 （ケロリと）いいえ、全然、だって私孝行のこゝと嫌いじゃありませんもの、だから困るのよ。

たか子 そうね。

ドア開けて操入って来る。

操 ただいま、あつ叔母様、ごきげんよう。

かつ子 ああ、ごきげんよう、まだ雨降ってて。

操 ええ、

たか子 操、お食事は。

操 すんだ。

たか子 じゃ、早く着替えてらっしゃい、お紅茶入れるわ。

かつ子 あら、もうおいとましてよ。

操 叔母様、いいじゃありませんか、パパがいると早寝

だけど、今はパパがいないから家とても宵ッぱりなんです、ねえママ。

たか子 ええ。さあ早く着替えてらっしゃい。

操 ええ。叔母様、お帰りにならないでね、ちよっとい

ていただきたいことがあるんだ。

かつ子 あら、そう、何でしょ、何？

操 ふふふ、じゃ、本当にね。(去る)

たか子 (立ってベルを押す)

かつ子 あれね、操君も、このごろ急におとなおとなして来たことね。

たか子 そうかしら、まるつきり子供よ、あれで銀行でつとまってるのかと思うわ。

女中さつ (入って来る) 奥様、お呼びでございますか。

たか子 ええ、お紅茶入れて来て。

さつ はい。(去る)

たか子 あら、かつ子さん、何ニヤニヤしていらっしゃるの。

かつ子 だって、……ふふふ、操君がまるつきり子供だなんておっしゃるからよ。

たか子 あら、そうかしら。

かつ子 そうよ、ふふふ、申し上げていいかしら、操君たらね……。

たか子 え？ まあなにか、いやなこと。

かつ子 さあ、いやってほどのことでもないけど……おききになりたい？ ふふふ……。

たか子 さあ、ヒミツのことならうかがいたくないわ。

かつ子 まあ、操君の母親としてきいてお置きにならないわ。  
くちやいけないわ。

たか子 でも、いやなことばうかがいたくないわ。

かつ子 まあ、あきれた。ひどいお母様なのね、お姉様  
って。

たか子 でも、私……そうなのよ。

かつ子 あのね、操君、このごろちよくちよくとても粹  
な年増と歩いててよ、銀座なんか。

たか子 粹な年増？

かつ子 ええ、そうね若造りだけど、年はもう四十越え  
ててね。

たか子 銀行の何か関係の方じゃないかしら。

かつ子 あら、あんなこといってらっしゃる、ちがうち  
がう、イソイソとまるで恋人同志よ。

操 (入って来る) ああお待たせ、あれ、叔母様、何に  
やにやしてらっしゃるの、いやだな。

かつ子 ふふふ、いっちゃおうかしらどうお姉様。

たか子 ああ、今の人のこと？ その粹な年増？

操 え？ 粹な年増？ ああなんだ、ママ、ほらきつと  
叔母様、北山さんのこといってらっしゃるのよ。

たか子 ああ、北山さん、ああ、そうね、あの方なら粹  
で四十過ぎね、あの方なら、ふふふ……。

かつ子 あら、お姉様ご存知なの、へえあれ誰、北山っ  
て？

操 北山寿々代ですよ、日本舞踊の。

かつ子 ああ、あれが北山寿々代。有名な、そう。

操 いやだな、僕があの人と歩いてるところご覧になっ  
たというの？

かつ子 ええ。

操 ああ、いじが悪いな、どうして声かけてくださらな  
かったの叔母様。

かつ子 だって……ふふ私、悪いかと思って。

操 いやだな、ねえママ、北山さんならねえ。

たか子 ええ、そうね。

かつ子 だってあんな粹な年増と操君が、銀座なんか歩  
いてると、ちょっと、人は誤解してよ、だってまさか

銀行の関係じゃない人でしょ。

操 そりゃそうよ。

たか子 あれなの、慎吾の会社の大きな取引先きのブラ  
ウンさんてアメリカ人の奥さんが、日本舞踊、習いた

いっていい出して、それで操が通訳でうかがったのよ。

かつ子 そう、通訳。でも、私が見かけた時はそんなアメリカ人なんかいなかったわ、二人きりだったわよ。

操 そりゃ、もうブラウンさんは、アメリカへ帰っちゃいましたよ。ずっと前に……。

かつ子 じゃ、通訳の仕事はもうないわけでしょ？

操 ええ、でもね、あの北山さんこのごろ外国へ行きたがってるのよ。それで為替管理のことで僕、相談を受けてるんでね、時々会うことあるの。

かつ子 そう、なんだ、つまらない！

三人笑う。

操 あっ、ママ！ それ、それなの。

たか子 え？ 何、操？

操 その皺しわ（立つ）

たか子 皺？

操 ええ、ママお笑いになると目尻にすごい皺ができるのをご存知なの？

たか子 あら、そう。

操 こういふふうによ。（とやってみせる）

たか子 まあ、そう。そうかしら。（自分笑ってみる）あら、本当ね？

かつ子 操君、そういうこともんじゃなくてよ。レディに対して。

操 だって僕、親孝行でいってるんですよ、ママわかってくださるでしょ。

たか子 そりゃ。まあどうしましょ……あの、ちょっと鏡かがみ見てくるわね。

そそくさと去る。

かつ子 悪い人、ずいぶん気にしてらっしゃるわ、ママ。

操 いいんですよ、大体ママ陽気すぎるんですもの。

かつ子 でもね、お宅のママは、私なんかとちがって、おきれいだから、気になさらないんですよ。

操 でもね、四十過ぎたら、やっぱり妻つてもいいのも、もつといろいろなことに神経質になってもいいと思うのよ僕。

かつ子 そりゃ、まあそうよ、男ってものも油断がならないからね。

操 まあ、うちのパパは、あんな朴念仁だから大丈夫だと思うけど……。

かつ子 さあね、うちの人のお兄さんですものわからないよ。

操 そう？ 叔父様そんなに、そうなんですか。

かつ子 まあ何ていうのかな、まだ操君みたいな未成年者には早いお話よ。

操 未成年者はひどいな。

かつ子 そうよ、精神年令みたいにセックス年令でもあるのよ、世の中には。

さつ 紅茶持って入って来る。

操 ああそう、セックス年令……ちよつといけるなこの言葉、明日銀行へ行って使ってやろう、セックス年令か……。

さつ はあ？

操 ううん、何もいやしないよ。

さつ (去る)

かつ子 ママずいぶん、長いことね。

操 ふふふ、よっぽど気にしてるな。

かつ子 残酷な人！

操 紅茶召しあがりません。

たか子 帰って来る。

たか子 いやね、ちつとも気がつかなかったわ。これからあんまり笑えないことね。操、もう笑わしちゃうよ。

操 何いつてるの、そんなわけに行くもんですか。それより手術なさりゃいいのよ。

たか子 え？ 手術、何の。

操 皺のよ。

たか子 皺の手術なんてあるの？

かつ子 ああ、美容整形っていうやつね。

操 ええ、そうそう。ママ、今はね、手術で皺なんか、パアパアってとれちゃうしね、鼻だってピューと高くなっちゃう世の中なんですよ。

たか子 いやよ、ママは痛いこときらいなんだから。

操 ああいうことをおっしゃる、痛くなんかあるもんですか。皺はね髪の毛の中をこう切ってね、そう一種のあげだな、あげをとっちゃうんですよ。こうしちゃうから皺なんか伸びちゃうでしょ？ ちょっと入院すりゃ、すぐですよ。

たか子 いやよ、そんな不自然なこと。

操 不自然じゃあるもんですか、とてもきれいになるんですよ。まるで見違えるくらい、まあすくなくとも十は若くなるな。

かつ子 まあ操君よく知ってるのね、誰か知り合いの年増が手術したの？

操 え？ ええ、ううん……銀行のね、事務員で、オールドミスがいるんですけどね、その人がね、やったのよ。

かつ子 そう、私はまた例の踊りのお師匠さんがやったかと思つたのよ、ふふふ……。

操 何いってらっしゃるの。まだそんなこといってらっしゃるんですか、ねえ、ママ思い切っておやりなさいよ。若くなりたくないの。

たか子 でもパパが何ておっしゃるかしたら、パパそういうことお嫌いでしょ。

操 もちろんパパには秘密ですよ。僕は今はチャンスだと思ふんだ。パパがアメリカへ行つてる間に手術しちゃうって七月に帰つて来たときは、ちゃんと十ばかり若くなつてのよ、知らん顔して、ね。これちょっと面白いじゃないの。

かつ子 そうね、面白いわ、あのお兄様、きつと目をパチクリさせて、変な顔なさるわよ。目に見えるようだよ。

操 そう、僕もそう思うんだ。どうしてこんなに若くなつたんだろうと思ひになるな、きつと、ハハハハハ。

たか子 他人のことだと思つて、いやな人たち！

かつ子 あら、そうじゃありませんわお姉様、私の経験からよ。女は、少しでもきれいになつていたほうがよくよ。じゃないと男つてものは、さつさとヴァイオリンなんか習いに行つちまうんですもの。

操 え？ ヴァイオリン？

かつ子 何でもないの。

操 そうですよ、ママ。ママも、四十過ぎたんだもの、

危険な年令ですよ。

たか子 まあ私が、何が危険なの。

操 ううん、パパさ、パパだって人間だから、やっぱり一応警戒すべきだと思うんだ。

たか子 うちのパパはその点大丈夫よ。

操 そうかな。

かつ子 お姉様は絶対信頼なのね。おうらやましいわ。

さつ入って来る。

さつ あのう、田園調布の奥様に、旦那様からお電話で、すぐにお帰りますようにということでございました。

かつ子 ありがとう、ふん、勝手ね、ちょっと早く帰って来ると、もう催促。でも、おいとまするわ、ふふ、すぐ帰りますっていつてちょうだい、じゃごきげんよう。

たか子と操、いささかあきれて顔を見合せる。

——暗転——

語り手 どうも世の中は平穩多事のようにですね。朴念仁にしろ品行方正な夫を持った中年の奥さん。それに少々、ちゃっかり屋にしても、母親思いの一人息子。それから義妹——まあこれは夫の身持が少々悪いんですが、それにしても電話一つでイソイソと帰ってゆくのですから、いい夫婦といえるでしょう。これでは、何の波瀾もありません。ということはお芝居にならないということです。では一つ、そろそろ何か起すことにいたしましょう。

第二場 ホテルの一室

場末の三流安ホテルの一室、戸外は雨が降っているらしい夜。

語り手 ……まあお察しの通りの場所です。まずセックス年令未成年者には出入禁止のところなんです。が、ここにまあ操君でも現れてくれれば、何とかお芝居にはなりそうですね。

仲居 お連れさん、お遅うございますわね。

北山、そんなお世辞には全然無関心で何か口で囁しながら踊りのフリを考案中である。

仲居 では、どうぞごゆっくり。

北山 ああ、ちよいとちよいと。(とチップを渡す)

仲居 あらすみません。

北山 それから蚊いぶし、あの人蚊がきらいだから、仲居 はいはい。(去る)

北山 ビールか何か飲み、窓の方にゆき、見下ろしたり落ちつかない。またフリの考案にかかる。

仲居 (来て) おいでになりました。(去る)

操 遅くなっちゃった、ごめんなさい。

北山 いいえ、いいのよ、どうせ、発表会の振付け考えてたんだから。

操 そう。

北山 どう切符売れた?

操 だめだめ、日本舞踊なんて僕たちの仲間じゃ問題にならないのよ。

北山 ママは?

操 ああ、それさ、やっぱり銀座なんか一緒に歩くの、だめね。

北山 そうよ、だからいわないことじゃない、みつかったの?

操 うん、パパの弟の奥さんが、僕たちのこと二度も見てるんだって、でもうまくごまかしといた。

北山 でも切符とそれとどういう関係あるのよ。

操 ありますよ。だって僕とあなたとそんなに親しいってママにわかったらだめじゃないの。

北山 だって、切符は別でしょ。

操 だめ、僕が日本舞踊の切符を売るなんて不自然なもの。

北山 よっぱどあなた日本舞踊嫌いね。

操 うん嫌いだな。無駄になるといけないから切符返します。はい。

北山 はっきりしてるのね。一枚もだめ……あなたもマンボがいいほうなのね。